



## マンモグラフィ

～2018年には最新のトモシンセシス(3D)機能を搭載した装置を導入します～

### 乳がんの特徴

現在、日本人女性のがん罹患率の第1位は乳がんとなっています。

乳がんは比較的若い世代で発見されることが多く、乳がんの発生率は30代後半から40代に急増することが知られています。他のがんと比べると、乳がんは早期発見・早期治療を行うことができれば、比較的予後が良いと言われています。

### マンモグラフィ

乳がんの早期発見・診断に欠かせない検査の1つです。マンモグラフィは、乳房を装置の上に乗せ、薄く広げた状態で圧迫して撮影を行います。薄く広げるのは、縮まった乳腺を広げて伸ばすことにより乳腺の重なりを少なくし、病変が正常乳腺内に隠れたり、反対に正常乳腺が病変の様に見えることを防ぐためです。



### トモシンセシス(3D)機能の強み

従来の2D撮影では立体の乳房を平面の写真にしていますが、乳がんの罹患率が上がる世代で多く見られる高濃度の乳房(乳房の中で脂肪よりも乳腺の割合が多い乳房)に対して診断機能が弱いとされています。

そこで当院では高濃度の乳房に対して診断機能が高いとされているトモシンセシス(3D)機能を搭載した最新の撮影装置を導入することにしました。

トモシンセシスは乳房を圧迫固定した状態で管球を動かしながら撮影を行い、得られたデータを用いて乳房の断層画像を表示させます。分かりやすくいうと乳房の輪切り画像の様なものです。

また、最新の画像処理技術も搭載されていますので、より良いマンモグラフィを撮影することが可能です。トモシンセシス機能はこれからの乳がんの早期発見において重要な検査になると思われます。

### マンモグラフィ専用の撮影室

トモシンセシス機能搭載の撮影装置導入に伴い、撮影室も移動する準備を進めています。ご案内にはしばらくお時間をいただきますが、新しい撮影室は、マンモグラフィ専用の撮影室となり、更衣のスペースを広く確保して、プライバシーの確保にもより配慮した造りとなっております。また、受診される方にリラックスして検査を受けていただけるような雰囲気作りを目指していきます。